



「国際協力カレッジ 2018」 事業実施報告書

<目次>

- 1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)
- 2、参加者アンケート結果
- 3、出展団体アンケート結果
- 4、アンケート結果の分析を踏まえた、本事業の目的・目標達成
および今後に向けての提案

1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)

【本事業の目的および目標】 *業務仕様書より抜粋

「国際協力カレッジ」は、中部地域において国際的な課題に関心を持つ若年層を中心とする人々が国際協力の現場で働く人の声に触れ、考え、共に動き始める場として2006年度より実施しており、本年度で12回目を迎える。この間国際社会においては、2015年9月の国連サミットにおいて「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。2030アジェンダでは「誰一人取り残さない」を理念として、一人ひとりに焦点を当て、開発途上国のみならずあらゆる国々で取り組むことが必要とされている。また民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること(グローバル・パートナーシップ)が求められている。

上記を踏まえ、「国際協力カレッジ2018」は国際協力に関心を有する学生や市民を主なターゲットとして、世界の現状や取り組み、SDGsの達成に向けて活動する団体(民間企業、NGO、自治体や市民団体など)の紹介などを通じ、国際協力の必要性や課題を理解し、参加者一人ひとりが具体的な行動に移すきっかけを提供することを目的として、以下のとおり実施する。





【本事業の実施概要(プログラム内容)】

- ・日時:2018年12月22日(土)10:00~17:00
- ・会場:JICA 中部 なごや地球ひろば
- ・主な対象者:国際協力分野におけるボランティア・インターン・職員に関心がある、学生・若い世代
- ・参加者数:76名 /定員70名
- ・主催:独立行政法人 国際協力機構中部国際センター(JICA 中部)
事務局:特定非営利活動法人 名古屋 NGO センター

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

Public Private ACTION for Partnership!!
~SDGsで日本を元気に、世界を元気に
その主役はあなたです!~

時間	内容	
オープニング映像(SDGsに関する映像)	ピコ太郎 × 外務省(SDGs)~PPAP~	『SDGs のうた』-未来人 feat. SDGs オールスターズ
	<p>「持続可能な開発目標(SDGs)」(エマ・ワトソン) World' *日本語訳 日本ユニセフ協会</p>	<p>Small Smurfs, Big Goals - 「持続可能な開発目標(SDGs)」啓発キャンペーン【ソニー公式】</p> <p>この活動は、地域をより健康で安全な場所に変身させました</p>
あいさつ	あいさつ・国際協力カレッジの説明	
10:00~ 10:10 (10分)	<p>全体司会</p> <p>【名古屋 NGO センター職員 田口裕晃】 ~SDGs映像の説明・進行内容について~</p> <p>開会の挨拶</p> <p>【JICA 中部 連携推進課 小川登志夫氏】 主催者代表としての挨拶と共に、以下3点の概要説明を行った。</p> <p>1、国際協力カレッジについて</p>	



	<p>2、JICA 中部について</p> <p>3、地球ひろば(SDGs体験コーナー)について</p>
1 時間目	シンポジウム『「誰ひとり取り残さない」世界を実現するために～仕事としての“国際協力”の関わり方～』
10:10～ 11:10 (60 分)	<p>1 時間目 シンポジウムスタート</p> <p>【進行:名古屋 NGO センター職員 村山佳江】</p> <p>アイスブレイキング</p> <p>「どんな人が、どこから参加している？」参加者同士で今日の期待と居住地域を話しあった後、数名の参加者に発表してもらった。</p>  <p>ゲスト紹介&トークセッション</p> <p>ゲスト</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div>  <p>木下 正義さん (株)クリスタル 代表取締役</p> <p>単身ウガンダに渡り薬品に依存しない自然サイクルで育てられたコーヒー豆と出会う。現在はウガンダのコーヒー農家(自然栽培)と指定農園契約を締結し、輸入・販売している。国内農業に参入し、岐阜で地元生産者と10品目の農産物を栽培している。</p> </div> <div>  <p>高田 弥生さん (公財)アジア保健研修所(AHI) 研修事業担当職員</p> <p>日本・ブータン・モンゴル・ベトナムで、古い建物や町並みの保存に携わる。住民の主体性を大切にした、幸福な地域づくりを目的とする文化財保存を行いたいと思い、現在、AHI で働きながら参加型地域づくりについて模索中。</p> </div> <div>  <p>町井 恵理さん (特活)AfriMedico 代表</p> <p>薬剤師。青年海外協力隊としてニジェール共和国で感染症対策に従事。現地での経験からどうすればアフリカの医療をさらに改善できるか考え続け、グロービス経営大学院へ進学。その後、AfriMedico を設立。Forbes JAPAN より「世界で戦う日本の女性55人」に選出される。</p> </div> <div>  <p>青木 信彦さん JICA 中部センター 連携推進課</p> <p>民間企業を経て、2010 年より JICA 中華人民共和国事務所にて法制度整備支援・企業連携、民間連携事業部にて SDGs ビジネス支援制度の構築を担当。米国国際開発庁(USAID)へ出向の後、2018 年 1 月より現職にて、企業連携及び広報・PR 等を担当。</p> </div> </div> <p>◆ゲスト自己紹介:名前、所属、担当業務について、パワーポイントを用いて説明。</p>



◆トークセッション:引き続きパワーポイントや写真を使用して、ゲストとコーディネーターが現在のキャリアに至るまでの経緯やきっかけ、たいへんなこと、やりがいについて、それぞれのゲストが話した。



<当日発表資料(抜粋)>

●木下さん

自分の写真が無いので、息子(小4)の写真代用『おん』

小学時代 → わんぱく坊主でクラスの人気者。4・5・6年生では学級委員。3歳の時に両親が離婚。母親の仕事の都合で転校ばかり。3校に通う

中学時代 → 英語も話せないのに卒業と同時に単身アメリカオランダへ。経由地のポルトランド空港で入国拒否されるも、職員より母親に連絡してもらい入国許可が下りる。小学校と同様に母親の仕事の都合で転校ばかり。3校に通う

高校時代 → バスケットボールの推薦で高校へ入学。全国大会へ出場するような高校だったので、朝から晩まで練習が続く。過酷な毎日で、これといった楽しい思い出も無く終了。16年ぶりに父義と再会。会社を経営していることを知る。

大学時代 → 父の仕事の都合で中国大連市にある大連外国語大学へ留学。中国の文化・生活に慣れることが出来ず、2年で帰国。友達100人ではしたが、語学については0点...

My Life's Journey

●高田さん

わたしのLife Journey

2010年 文化財保存から保健・開発へ
①海外ボランティア(3) JICA、ベトナム、文化財保存

2008年 ②就職(2) 建設会社

2007年 ③海外ボランティア(2) NGO、モンゴル、文化財保存

2005年 ④海外ボランティア(1) JICA、ブータン、文化財保存

2001年 ⑤就職(1) 建設会社 日本建築・文化財保存、現場監督

⑥小学生 テレビの影響で歴史・文化好きに 将来の夢: エスティーハンター

⑦中学生 テレビで アンコールワット修復工事 将来の夢: 修復士

⑧大学生 建築・景観デザインを学ぶ ヨーロッパ各建築を訪ねる旅

●町井さん

「子供が高熱で、死ぬかもしれない。病院に行くのでお金を1000FCFA (200円) ちょうだい! 日本人はお金持ちでしょ?」

あなたなら、どうしますか?

A: あげる
B: あげない

●青木さん

私のこれまでのLife Journey (JICA中部 青木)

【小学生】 集会所で英会話教室
香港・マカオの2泊3日の家族旅行

【高校生】 英語の授業で留学生を観光案内

【大学生】 北欧スウェーデンの大学に交換留学

【就職】 民間企業へ就職。遅咲きバックパッカーで途上国を旅して、海外協力隊と出会う

【転職】 ビジネスを通じた途上国支援に関心

休憩 11:10~11:20(10分)

2時間目

テーマ別講座『気になるあの先輩に...インタビュータイム!』

11:20~
12:20
(60分)

◆インタビュータイム:
インタビュータイムは、参加者が1時間目で興味を持った先輩の話をじっくり聞くことができるよう、ゲストを2名選び(25分×2回)、それぞれのゲストのいる部屋に分かれた。参加者がゲストを囲んで座り、参加者からの質問にゲストが答えた。



◆以下、参加者からの質問内容と回答

(一部抜粋)

●木下正義さん(クリスタル) *セミナールーム A1 (1回目 16人、2回目 7人)

Q.行政(政府)も企業も NGO も WinWin の関係が望ましいと言っていたが、企業側のメリットは何か？

→A.NGO に協力できること、会社のイメージ向上につながる
こと、ビジネスモデルが構築できること、従業員の満足度の向上などがある。特に、従業員のモチベーションが上がったことが大きい。



Q.企業だからこそできることは何か？

→A.「自分達がやりたいことをやれる」こと。企業は、使命や理念があって成り立つもので、自分たちがやりたいことがそのまま事業に直結している。

●高田弥生さん(アジア保健研修所(AHI)) *セミナールーム A2・3

(1回目 22人、2回目 14人)

Q.自立支援で大変なことは？

→A.すぐには結果が出ないこと。その人を信じて待たなければならない。また、活動を継続させるために支援者に活動報告を行い、わかってもらふこと。



Q.どのように知識を増やしているか。

→A.とりあえず現場に入ってみる。教えてもらうのではなく、体験から学ぶ。

Q.AHI 国際研修の研修生はどんなルートで応募するのか？

→A.卒業生による情報にて後輩やネットワークで広げる。新しい地域には出向いたりインターンシップで出会い開拓する。最近では JICA のサポートや連携も。

●町井恵理さん(AfriMedico) *セミナールーム C1

(1回目 20人、2回目 29人)

Q.家事や育児との両立は？

→A.育児は協力してもらっている。またミーティングに子どもを連れていくこともある。メンバーの人もミーティング中に子どもを見てくれるので、助けてもらっている。



Q.協力隊時代のアフリカの村落で、住民のマラリアについての知識が広まっても行動を変えられなかったという話があったが、その理由は何だったと思うか？

→A.ある村落では村長の息子が呪術師だったということがあった。そのため病気にかかっても病院に行かないという傾向があった。住民の行動を変えるためにはもっといろんな人を巻き込んで活動する必要があったと感じる。

●青木信彦さん(JICA 中部) *セミナールーム B3・4 (1回目 18人、2回目 23人)

Q.働き甲斐について。前職であるリクルートと比較し、JICA は窮屈でないか。



	<p>→A.資金の使い方やスケールについて、違いがあると感じる。リクルートは失敗が許される文化、一方、JICA は公金のため、常に説明責任がある。リクルートでは常に1年単位での事業収支が基本になるが、JICA では10～30年後の国の発展を見通した計画になる。</p> <p>Q.大学生で今後について悩んでいる。なぜ JICA を選んだのか。</p> <p>→A.JICA は外務省と連携して業務を行っている。外務省の方針に則り「実施する」立場。「ODAの実施機関」と言われている。より現場に近く、各省庁を横断的に、プロジェクトを動かす点に魅力がある。</p> <p>Q.私は「何となく就職しちゃった社会人一年目」。転職の決心はいつか、後悔したことは。</p> <p>→A.卒業後、司法試験に向けて勉強し、浪人を経験した。そのため一社目から中途採用としての位置だった。不満は特になかったが、バックパッカーとしてアジアを旅行するうちに、心境が変化した。法務という専門分野であり、青年海外協力隊で行く先がなかったが、JICA で中国の法整備という業務を見つけてことができ、応募した。機会は必ずくるから、そのための準備(できる範囲で広くかかわる)を怠らないことが大切。後悔というか、リクルートと JICA の社風の違いには多少戸惑ったが、すぐに慣れる。</p>	
休憩 (12:20～13:30) (70 分)		
<p>昼休憩 * SDGS 体験ゾーン ツアー (オプション)</p>	<p>●SDGs理解促進のための「体験ゾーン」参加</p> <p>SDGsの理解を深めるため、参加者全員が1Fの「体験ゾーン」に参加し、世界の現状や国際協力の潮流、SDGsに関して体験し、学んだ。</p> <p>(第1回 12:30～12:50) (第2回 13:00～13:20)</p> <p>*先着希望者 50名(各 25名)</p>	
3 時間目 「こんな人、うちに来て！～団体のアピールタイム～」		
<p>13:30～ 14:40 (70 分)</p>	<p>【司会進行】名古屋NGOセンター職員 堀川絵美</p> <p>参加者に国際協力への一歩を踏み出すきっかけをつかんでもらえるよう、「ボランティア」と「インターン」の違いについて簡単に説明した後、4時間目のマッチング展に向けて、出展団体から各団体の活動内容や求めているボランティア等についてプレゼンテーションを行った。</p> <p>◆あいさつ・3時間目の流れ説明</p> <p>◆「ボランティアとインターンの違い」説明</p> <p>◆プレゼンテーション中のお願い</p> <p>・受付にて、出展団体の詳細資料を配付した。出展団体の想いをより参加者に伝えられるよう、また、参加者が団体の生の言葉を聴くよう、プレゼンテーション中はこの資料を見ず、気になったことや印象に残ったことをキーワードで団体一覧表にメモする程度にとどめ、団体のプレゼンテーションを全身で受け止めて欲しいと司会者からお願いをした。</p> <p>◆団体アピールタイム:出展する国際協力分野の16団体による自己紹介 (活動内容、募集内容説明)</p> <p>・1団体ずつ、活動紹介とどのような人を求めているかについて、3分間のプレゼンテーションを行った。</p>	



・活動分野ごと、5 団体→5 団体→6 団体の順に区切りを入れてプレゼンテーションを行った。区切りごとに、近くの人と気づきやメモしたことを共有する時間を取った。また、長時間にわたるプレゼンテーションにおいて聴く集中力を切らさない工夫として、区切りごとに簡単なストレッチを行った。

・分野とプレゼンテーションの順番、区切りは以下の通り

【多文化共生・国際交流】

①外国人ヘルプライン東海

【教育・子ども】

②アーシャ=アジアの農民と歩む会

③キャンヘルプタイランド

④バングラデシュ保育園の会 (BNSA)

⑤アイキャン

【環境・コミュニティ開発】

⑥DIFAR

⑦ホープ・インターナショナル開発機構

⑧ハンガーゼロ

⑨イカオ・アコ

⑩チェルノブイリ救援・中部

【人権・平和・医療】

⑪アジア保健研修所 (AHI)

⑫AfriMedico

⑬セイブ・イラクチルドレン・名古屋

【JICA 海外協力隊&NGO 相談コーナー】

⑭JICA 海外協力隊相談コーナー (JICA 中部)

⑮外務省 NGO 相談員コーナー 中部ブロック担当 (名古屋 NGO センター)

【キャリア相談】

⑯JICA 国際協力人材部 (PARTNER)

◆4 時間目の説明



休憩 14:40~14:50 (10分)

4 時間目 国際協力ボランティア・インターンマッチング展 今日からスタート！国際協力、はじめの一步

◆各出展団体と参加者のマッチング展

3 時間目の団体説明を受けて、マッチング展を行った。

14:50~
16:10
(80 分)

- ・ この国際協力カレッジの参加のコツは「今日で完結させないこと」と伝え、関心のある団体に固執せず、たくさんの情報を集めて欲しいと伝えた。また、団体に対しても、ブースに来た全員と偏りなく話ができるよう、口数が少ない人へ声をかけるなどの配慮をするよう伝えた。
- ・ 参加者の偏りを防ぐため、最初は司会者の指示により近くの団体のブースへ移動、15 分間その団体の話を聞いた。その後はフリータイムとし、より詳しく話しを聞きたい団体のブースに自由に移動した。司会者より 20 分ごとに時間のアナウンスをし、説明や移動の目安とした。



5 時間目 全体会・ふりかえり/あいさつ、アンケート記入

◆ふりかえり

参加者に加え、出展団体も交え 2-3 人程度でグループを作り、以下について話し合い、振り返りを行った。

- ① 今日の参加動機
- ② 今日の気づき・学び
- ③ 明日から「できること」

感想の全体共有の場面では、参加者から自発的に手が挙がり次のような感想があった。

「今まで保健と医療の分野だけに関心を持っていたが、他の分野とのつながりがあることが分かった」

「こんなに多くの若い人が国際協力に関心を持っていることが分かった。将来に期待が持てると感じた」

16:10～
16:45
(35分)





16:45～
17:00
(20分)

◆閉会のあいさつ
 (特活)名古屋 NGO センター 事務局長 戸村 京子
 世間では、最近の若者は国際協力に関心がないと言われているが、「国際協力カレッジ」という場があることで、これほど国際協力への気持ちや意識が高い若い人たちがたくさんいるということがわかった。
 また、参加者側にとっても、団体者側にとっても、国際協力に対する情報や想いを共有できる数少ない、貴重な場となっている。これからの皆さんの活躍を願うとともに、今後もこのような場が続くべきだと感じた。



◆アンケート記入

(注意)本報告書の掲載写真に関しましては、特に参加者が特定できる写真の取り扱いにはご注意ください。

2、参加者アンケート結果

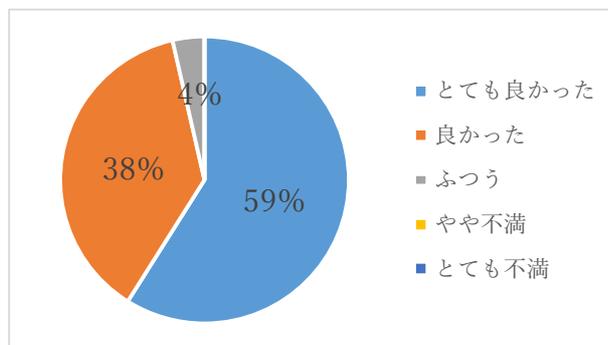
参加者・出展団体共にアンケートを配布し、回答を頂いたものを集計した結果である。

以下は、参加者によるアンケートの集計結果である。(参加者アンケート有効回答・回収率 76%)

問1 1時間目:シンポジウム『誰ひとり、取り残さない』世界を実現するために』はいかがでしたか？

◆参加者の声(抜粋)

- ・ 最初から国際協力を目指しているのではなく、いろいろなチャンスとともに今のお仕事をされているのだと知った。
- ・ それぞれのLifeJourneyがおもしろく、木下さんの人生がとても刺激的だった。
- ・ 4人の方の国際協力を職業にするまでの過程や人生の選択が非常に興味深かった。1人ひとりへの関心が一気に高まり、いいスタートだった。
- ・ 具体的な活動を知ることができ、自分にも何かほかの形でできるのではないかと思った。
- ・ 自分が今まで視野に入れてこなかったことも、良さそうな道が見つかり、もっと探してみようと思った。



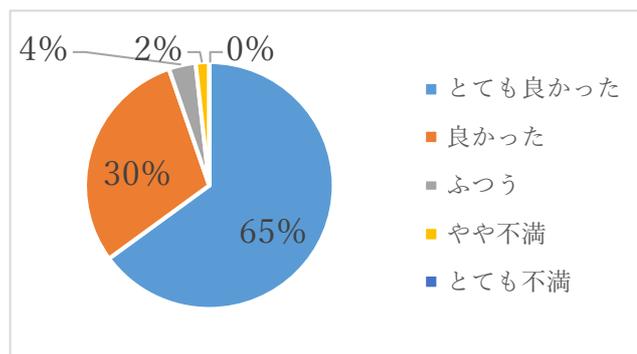


- ・ 情報収集の目的できたが、いい刺激をたくさんもらった。
- ・ 聞きたいことが凝縮されており、様々なバックグラウンドを持つパネリストの方の話を楽しく聞けた。
- ・ 皆さんまったく違う分野の方々だったので、おもしろかった。
- ・ もう少し各講師の事業などの深い話がききたかった。
- ・ 内容は非常に良かったが、もう少し一人ひとりの時間が長い方が嬉しかった。
- ・ 建築の分野から国際協力への道があるということがとても新鮮であった。

問2 2時間目:テーマ別講座「気になるあの先輩に・・・インタビュータイム!」はいかがでしたか?

◆参加者の声(抜粋)

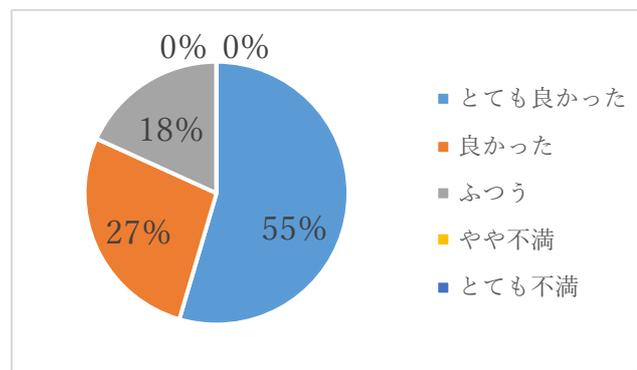
- ・ 自分をもっと詳しく話を聞きたいと思ったことを近い距離でお話できて楽しかった。
- ・ 海外の識字率や、イラストや言葉の重要性についての話が印象的だった。
- ・ 皆さんが一発で国際協力というゴールに到達したわけではないと分かった。
- ・ 女性ならではのプライベートの選択や働き方を知った。
- ・ 国際協力をするということに様々な準備や配慮がなされていることを感じた。
- ・ 自分たちが何をするかより、自分たちがいなくなった後のことを考えるのが大事だということ。
- ・ 木下さんの企業だと柔軟にやりたいことが支援できるという話が印象的だった。
- ・ 高田さんの話はとても同意できる部分が多かった。
- ・ 町井さんのバイタリティー溢れるお話に、私も一歩踏み出さなきゃ!という気持ちになった。
- ・ 青木さんの大切なことは「語学・専門・人間性」という話。



問3 昼休憩中:地球案内人による「SDGs体験ゾーンツアー」はいかがでしたか?

◆参加者の声(抜粋)

- ・ SDGsを知るための工夫がよかった。魅力的!
- ・ 実際に自転車をこいで汚水を濾過する場面が印象に残っている。
- ・ 現在勉強していることを、さらに楽しく知れた。
- ・ 自分のしなければならぬことが分かった。
- ・ 言葉は聞いたことはあったけど、意味がよくわかっていなかった。体験型で知れたのが分かりやすかった。自分の周りの人にも知ってもらいたいと思った。

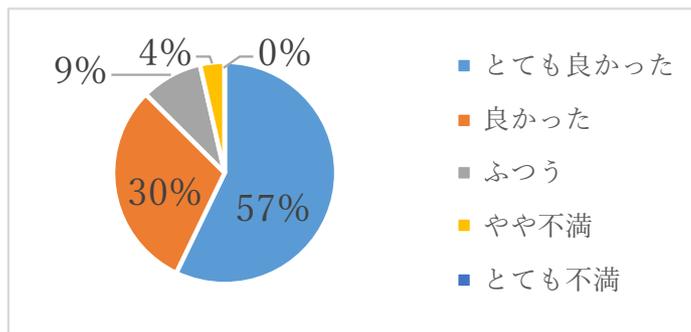


問4 3・4時間目:「ボランティア・インターン マッチング展」はいかがでしたか?

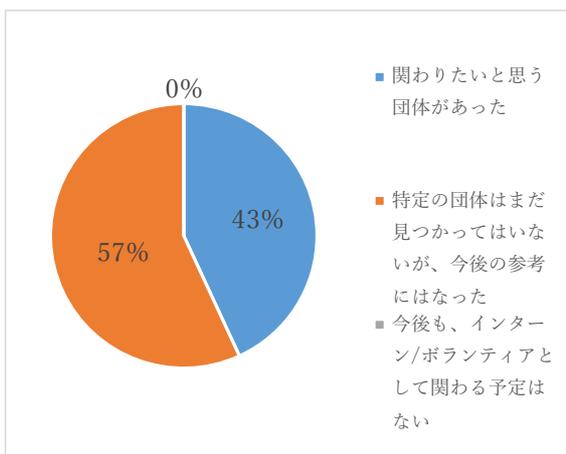
◆参加者の声(抜粋)



- ・ 土日でもできるボランティアが見つかった。
- ・ 三重県から来ていたのでDIFARさんと会えてよかった。
- ・ 色々な分野の方と話をすることで、ボランティアが身近になった。
- ・ 完全に 20 分区切りにした方が、もっと話ができるチャンスはあったのではないかな。
- ・ 自分にも小さなことからできることがあると知った。
- ・ 興味関心があるブースに限定せず話をすることで新たな発見があった。
- ・ 今日自分の夢をかなえるための方法を探しに来たのですが、皆さん焦らずまずは経験することが大切だとおっしゃっていたので、大切なことに気づくことができました。
- ・ 時間が短く、回数が少ない。



問 5 実際に、ボランティアまたはインターンとして関わりたいと思う団体が見つかりましたか？



(具体的に挙げられていた団体名)

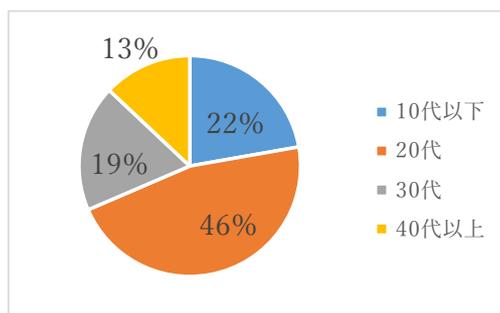
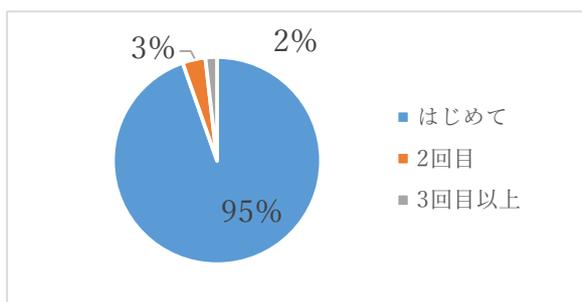
アジア保健研修所(AHI)/青年海外協力隊(JICA 中部)/セイブ・イラクチルドレン・名古屋/イカオ・アコ/ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)/DIFAR/ホープ・インターナショナル開発機構

(その理由)

- ・ 以前フィリピンで仕事をしていて、内容が面白そう。
- ・ 栄養・食に関して一番近く、食育活動もできたらと思った。
- ・ 事務で募集があった。
- ・ 中東と関わりがあるボランティアやインターンがしたい。
- ・ 自分の興味のある分野の協力隊があることを知った。
- ・ 関与の仕方が様々あるようなので、個人の都合に合わせて関わりやすそうだった。

問 6 以前にも「国際協力カレッジ」(シンポジウム&テーマ別講座、ボランティア・インターン マッチング展)に参加された経験はありますか。

◆差し支えなければあなたの年代をお聞かせください。





3、出展団体アンケート結果（意見は抜粋）

出展団体に向けたアンケートを実施し、回答頂いた。出展団体のアンケート有効回答・回収率は 100%であり、以下は、その結果である。

問1 3時間目「団体紹介タイム」についての感想をお聞かせください。

【感想】	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンル別に紹介していたので、参加者が整理しやすいと思った。 ・記入されている情報は後から見るので、アピールタイムで「今は見ない！」というルールを用いるのは非常にいいと思った。 ・途中でシュアリングタイムやストレッチがあったおかげで、参加者に集中して聞いてもらった。 ・他団体のプレゼンを聞くことができ勉強になったし、自分のプレゼンを練るのにもいいトレーニングになった。 ・以前よりプレゼン時間が長くなり、紹介を充実させることができた。 ・出展団体側も他の団体のことを知るができるいい機会となっている。
【改善点】	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭だけだと説明しにくいので、スライドを使用できたらもっとわかりやすくなると思う。 ・毎回緊張して上手に話せない。

問2 4時間目「ボランティア・インターン マッチング展」についての感想をお聞かせください。

【感想】	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な時間設定があり、参加者の満足度も高かったと思う。 ・明確な目的をもって話を聞きに来られた人ばかりだったので、話しやすかった。 ・今年は空白の時間がなく、たっぷり話ができた。 ・高校生や大学生など若い人たちに海外に興味を持ってもらえて、とてもいいと感じた。
【改善点】	<ul style="list-style-type: none"> ・時間になると参加者が移動する流れができてしまっていたため、そこが難しく感じた。 ・隣の団体との距離が少し窮屈だった。 ・アンケートにボランティアを希望する団体名を書く、個人の連絡先を開示してもらうなど、マッチングの「仕組化」をしてもらいたい。

問3 今回の「ボランティア・インターン マッチング展」では、実際にボランティアやインターンを希望する人はいましたか？

選択肢	回答数	1.と回答→人数は？
1.実際にボランティア・インターンを希望する人がいた	40%	各団体 3～20 名 計 57 名 (平均 9.5 名)
2.話は聞ききたが、実際にボランティア・インターンをするかどうかわからない	60%	
3.話を聞きにくる人もいなかった	0%	

問4 国際協力カレッジに参加した経験のある団体の方で、過去の「ボランティア・インターン」マッチング展を通じて、実際にボランティアやインターンをしていた、あるいは現在している人はいますか？

選択肢	回答数
1.現在、ボランティア・インターンをしている人がいる	30%



2.過去にボランティア・インターンをしていた人がいた	50%
3.(担当が変更したため)国際カレッジ経由の人かどうか把握していない。またはいない。	20%

問5 次回以降の「国際協力カレッジ」について、アイデアや改善点などがございましたら、お聞かせください。

また今後、ボランティアやインターンなどの人材を発掘・定着させるためのイベントや研修などのアイデアがございましたら、お聞かせ下さい。

<感想>	<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと頻繁にこんな機会があったらいいなと思った。 ・ 中部地方で団体の活動をアピールできる機会がないので今回出展できて良かった。 ・ 出展団体情報は4時間目に有効に使えた。 ・ 特に悩んでいる学生さんなどには、丁寧なコンサルテーションをしてあげる必要があると思った。自分の団体はボランティアマネジメントの力(人材)が足りないので、その勉強会があるとよい。
<改善点>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5時間目のふりかえりの時間に、出展団体だけのグループがあってもいいかなと思った。 ・ チラシに講師の方の紹介があるように、出展団体の活動内容等もあらかじめHP等である程度共有されているといいと思った。 ・ ブースのパネルが立てかけ式ではなく、安定した代替物にしてほしい。 ・ 隣の団体との距離が少し窮屈な感じがした。 ・ 参加者も含めた懇親会があると、マッチング展で時間がない分そこで話せる。

4、アンケート結果の分析を踏まえた、本事業の目的・目標達成および今後に向けての提案

本事業の企画書において、達成目標およびその指標について、以下のように記載している。

(以下、企画書より抜粋)

到達目標を測る指標	<p>参加者および出展団体に対し、実施するアンケート結果が、以下の3点を満たしていること。</p> <p>A、参加者が参加前と比較し、国際協力の必要性や課題に対する理解が深まったかどうか。</p> <p>1. 参加者によるアンケートのうち、1～2時間目(シンポジウム・テーマ別講座)について、「とても良かった」・「良かった」と回答した人が、回答者数全体の80%以上であること。</p> <p>B、参加者一人ひとりが、イベント後、具体的な行動に移すきっかけとなり得たかどうか。</p> <p>2. 参加者によるアンケートのうち、「実際にボランティアまたはインターンとして関わりたい、あるいはイベント等に参加したいと思う団体が見つかりましたか？」の質問に対し、「見つかった」と回答した参加者が、回答者数全体の50%以上であること。</p> <p>3. 出展団体のうち「ボランティア・インターンを希望する人がいた」「イベント等に参加してくれそうな人がいた」の合計数が、回答者数全体の50%以上であること。</p>
------------------	---

●到達目標の指標および参加者・出展団体アンケート結果について

- ・ 参加者のアンケート結果によると、シンポジウムについて「とても良かった」、「良かった」と回答した参加者は合計97%、テーマ別講座については95%、ボランティア・インターンマッチング展については87%となっており、非常に高い満足度を得ており、Aの指標については十分達成し、参加者の「国際協力の必要性や課題に対する理解が深まった」と言える。
- ・ また、今回のイベントで、「インターン・ボランティアとして関わりたいと思う団体が見つかった」という参加者は43%、「特定の団体はまだ見つからないが、今後の参考になった」という参加者は57%であり、合わせると100%の回答者に対し、本イベントにおいて、具体的な行動に移すきっかけを提供できたといえる。



- ・ 前回より引き続き 2 度目の試みとなる「SDGs体験ゾーンツアー」では、「とても良かった」、「良かった」と回答した人が 82%であった。定員 50 名のオプションツアーであったが、定員を超える申し込みがあった。参加者の意見として、「言葉は聞いたことがあったが、意味をよく知らなかった」、「現在勉強していることを、さらに楽しく知れた」、「実際に自転車を漕いで汚水を濾過する場面に印象に残っている」といった意見が複数挙げられ、体験型で楽しみながら SDGs に対する理解が深められたと考えられる。また、オプションツアーは全員参加ではなく、より関心の高い希望者に限ったことがプログラムの質を高めたと考えられる。また、昼休憩中に実施したことも、他のプログラムの質を削ることなく有効であった。
- ・ 出展団体のアンケートにおいては、「ボランティア・インターン希望をする人がいた」と回答した団体が 40%であった。ただ団体によっては 15 名～20 名のボランティア・インターン希望者とつながることができたり、有給職員への応募者を得られた団体もある。実際にボランティア・インターンを希望する人数は昨年の 45 名から 57 名に増えているため、希望先が一部の団体に集中していることがうかがえる。B の指標達成にわずかながら届かなくとも、参加者視点で見れば成果は上がっている。今回、初出展団体が全体の 3 割と多く、中にはボランティア希望者に連絡先を聞いてはいけないと思い、次のアクションに繋がらなかった団体もあった。今後はより一層、初出展団体を考慮した事前調整が必要とされる。
- ・ 過去に参加者としてカレッジに参加し、今回は出展団体としてプレゼンをするという、まさに本事業の成果ともいえる人たちが複数見受けられ、本事業の即効性の高さと、「市民」と「国際協力活動」を結ぶ「懸け橋」としての存在価値と認知度の高まりを、事業の前後を通じて感じるができる。アンケートを見ても、今後も本事業が、中部地域における国際協力の裾野を広げる JICA 中部の恒例事業となることが、中部地域の市民や国際協力団体より望まれている。

●参加者層および広報について

- ・ 認知度が高まり、安定的に定員を超える参加者が集まるようになってきている上、リピーターではなく、95%が初めての参加であり、国際協力に関心がある若者層を毎年、発掘していることとなる。また、参加者の約 7 割弱が 10 代～20 代の若者であり、想定していた層に対して広報ができたと言える。特に昨年に比べ、10 代以下の参加者割合が増えている。
- ・ 中部地域(愛知県、岐阜県、三重県、静岡県)の参加者が中心ではあるものの、今回はなんと海外(イギリス)から本イベントのために帰国したという参加者が会場を沸かせた。また、神奈川県、大阪府、京都府など東海地区外からの参加もあり、本事業の全国的な認知度の広がりがみられ、このイベントが中部地域のみならず、全国的にも希少な場であることがうかがえる。
- ・ 申込時のアンケートによると、情報源としては、JICA、PARTNER、名古屋 NGO センター、大学などにおけるチラシおよびホームページが全体の約 50%を占めていた。今回は、WEB からの申し込みにより一本化したこともあり、特に Facebook の広報内容を工夫したところ、遠方参加者の情報源については、Facebook が多く挙げられており、SNS による広報活動を積極的に行った効果があったとみられる。また、知人・友人から勧められたり、直接 JICA 職員からチラシをもらったり、説明を受けたという参加者の比率も高く、ネットだけではなく、過去の参加者や関係者等の口コミによる参加も増えていると考えられる。
- ・ 3 連休の初日ではあったが、大学の冬休みとも重なり、学生の姿も目立った。今回は「ボランティア・インターンマッチング展」の際には区切られた時間を超えても熱心に話を聞き続ける等、明確な関心ごとや目的を持つ熱心な参加者が多くみられた。



●今後の検討課題について

- ・ 一方で新たな課題として、「ボランティア・インターンマッチング展」では、昨年度から「時間が短く、もっと話が聞きたかった」との意見があったため、今年度は設定された時間が過ぎても同じ団体で話が聞きたい人は引き続き残っていても構わないとアナウンスをかけた。この時間配分がちょうどよいと回答する参加者が多数だった一方、わずかながら「完全に 20 分区分切りにした方が、もっと話ができるチャンスはあったのではないか」という意見もあった。今後、検討する必要がある。
- ・ 申込み人数は 101 名だったが、実際当日の参加者数は当日受付を含め 76 名と定員 70 名に対し適切な参加者数となった。時節柄、体調を崩しやすい時期でもあることから、当日のキャンセルも想定して定員(70 名)より 30 名以上多く参加者を受け付けた結果であった。無料イベントにありがちな、ドタキャン率を下げる工夫はしているが、ある程度はその数を見込んだ上で受付数をコントロールする必要がある。
- ・ 当日は、長時間にわたり受付を設置していたが、会場入れ換えなどの出入りが多かったタイミングや出展団体の出入りと重なり、途中参加者が受付をせず会場に入ってしまった可能性があり、把握しきれていない参加者が数名いると考えられ、今後の対策を考える必要がある。

●その他、運営面・契約面において

- ・ 今回、イベント終了後の運営側の振り返りに JICA 担当者の方々が参加され、一緒に振り返りを共有できたことは大変貴重だった。契約上では主催者と受託事務局という形ではあるが、本イベントの創設当初のように、同じ目標に向かって、ともに持てる知恵と力を合わせる「協働」事業であることを実感することができた。
- ・ 東京からのゲスト招聘にかかる経費節約のため、自団体の備品・文具を持ち出したり、ファシリテーター(1~2 時間、3~4 時間、5 時間目、全体司会)を運営側と兼ねて自団体の職員で補っていたが、運営側の人手が手薄になってしまう場面があった。
- ・ 初めて年末に実施し、学生の参加が多く有益な面もあったが、運営側としては、直後に年末年始があるため、報告業務にかかる関係者との連絡調整のタイミングが大きすぎてしまうため、契約期間(報告書の提出期限)をもう一週間先に延長していただけると有難い。
- ・ 昨年度より、JICA 側で行っていた事務局業務(当日資料の印刷、備品等の準備、司会進行、WEB 用の報告書の作成)が委託業務に含まれ、加えて、SDGs 体験ゾーンの調整業務も増加したこともあり、やはり運営にかかる時間のコストカットは難しかった。たとえ複数年受託しているがゆえの経験・ノウハウがあっても、関係者との調整や準備は毎年丁寧に行う必要がある。当日運営に欠かせないボランティア(設営、受付、案内人、司会、講師、ファシリテーター等)の募集やコーディネート、打ち合わせ等の業務も必要となる。たった 1 日のイベントのように見られてしまいがちだが、「準備 8 割、本番 2 割」というように、事前事後の参加者および出展団体のフォローアップも含め、報告書では表しきれない何か月にも及ぶ作業や多くの人たちの協力や時間の投入が、本事業の成果の礎となっていることを記しておきたい。

以上